

Reitaku Association for Overseas Development

麗澤海外開発協会 会報

平成16年
(2004年)
7月1日
第2号第2巻 第1号
年2回発行

主な記事

巻頭言 会長挨拶
 紹介 メーコック財団 / よもぎの会
 報告 スタディツアー / 事業報告
 ニュース / 新会員・寄付金報告

発行所：財団法人麗澤海外開発協会
 〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
 TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
 発行人・岩田啓成 / 編集人・横山守男

国際協力のいっそうの推進に向けて努力する

財団法人麗澤海外開発協会 会長 廣池 幹堂



財団法人麗澤海外開発協会は「発展途上国において文化・経済の発展に協力するため、人材の育成と技術指導を行い、もって世界の平和、人類の安心と幸福に寄与すること」を目的に、昭和46年(1971年)に外務

省所管の公益法人として設立されました。以来、30年以上にわたって発展途上国における文化・経済の発展に資する人材の育成と技術指導を推進し、現在は主にネパールにおける鍼灸専門家の育成および無料巡回治療を実施する事業への助成、タイ北部での少数民族の子供たちの生活・教育施設の運営(メーコック財団)等への助成を推進しております。

さらに、昨年より新たに「竹原基金」を設け、東南アジア諸国で貧困等の理由で学校へ行けない多くの子供たちのための教育助成事業を推進しております。この基金は、元ラオス人で現在は麗澤大学教授・当協会理事の竹原茂(旧名：ウドム・ラタナヴォン)氏が発起人となっているものです。昨年6月より、当協会の諸事業を積極的に進めるために、会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等をお願いしましたところ、多くの方々にご入会をいただき、基金に対しても多大のご協力をいただきました。紙上をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

そしてこの度、皆様からの会費および寄付金等を有効に活用していくための「調査委員会」(本紙3頁参照)

を発足させました。これからの国際協力・支援のあり方に関して、当委員会に皆様方の忌憚のないご意見・情報をお寄せいただければ幸いです。

このような国際協力・支援活動を積極的に実施していくためには、皆様方の絶大なるご支援とご協力が必要不可欠です。今後とも、会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等、当協会の諸事業に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

21世紀を迎えた今日、先進各国と発展途上国との経済格差はますます広がってきております。麗澤海外開発協会では、これまでの経験と実績を踏まえ、あらためてわれわれの使命を確認し、発展途上国のと念願しております。



▲ 竹原基金によりタイのメーコック財団で教育を受ける子供たち

タイへの教育支援活動にご協力を

メーコックファーム(現・メーコック財団)は、1991年にタイ北部において観光による地域の発展のための活動をしていた現地タイ人のピパット・チャイスリン氏が、麗澤大学・竹原茂教授と聖学院高校・戸辺治朗教諭の協力のもとに共に立ち上げた「現地の問題解決と生活の質の向上を目指したNGO」です。スタディツアーを通し現地の問題への理解者と支援者を得る共に、訪問者に現地での体験の場を提供することで、相互理解に基づく協力関係を築いてきました。

当初は、主に麻薬治療を中心とした現地の問題解決を活動の要としていました。そして、総計約150名のうちの約70%の患者の麻薬中毒脱却に成功しました。山岳民族を主な対象として行ってきましたが、それだけでなく都市部の青少年を対象とした麻薬治療とリハビリテーション活動も行ってきました。また、職業訓練やセミナーを通して様々な問題解決に貢献してきました。

2000年からは、活動の重点を生活の質の向上に移して、教育支援活動をメインに様々な支援活動を展開しています。教育支援活動において、貧しくて教育を受ける機会に恵まれない総計88名の子供たちの教育支援(奨学金制度)を行ってきました。

現在は41名の子供たちがプロジェクトの支援を受けて勉学に励んでいます。また、両親のいない、教育を受けられない環境にいる子供たちをメーコックファーム施設



▲ 作物用の竹ひも作りの様子。メーコック財団では自給自足を目指している。

内においても受け入れ、学校教育による学業支援のみならず、基礎的な農業技術から養鶏、魚の養殖、ハンディクラフト等の技術や知識、経験の取得の支援を行っています。そして、幼稚園児から中学生まで24名の山岳民族の子供がプロジェクト内で寝食を共にしながら教育を受けています。

2003年2月に現地財団法人格を取得し、名称をメーコック財団と改め、より安定した活動運営とより充実した教育支援のため、さらに現地の問題解決と生活の質の向上にいっそう貢献できるよう日々奮闘しております。

メーコック財団

会長 ピパット・チャイスリン

竹原基金のご案内

財団法人麗澤海外開発協会では、平成15年度より新たに「竹原基金」(Takehara Fund)を設けました。

この「竹原基金」は、1983年にラオスから日本に帰化し、現在、麗澤大学外国語学部教授であり本法人理事として国際救援活動で活躍する竹原茂氏(旧名:ウドム・ラタナヴォン氏)に由来する基金です。

タイ、ラオス、カンボジアを中心に難民救援運動に率先して尽力するなど、まさに献身的な姿勢をもって国際協力活動に取り組み、1984年からは、タイ北部の恵まれない少数民族の救援活動として、子供たちの教育施設の建設や教育支援、さらに学生・青少年を対象にしたスタディツアーを企画・運営するなど、常に発展途上国に対する教育支援と人材育成に携わっています。

何卒この趣旨にご理解とご賛同を賜りまして、本基金に対するご支援とご協力をくださいますようお願い申し上げます。

お振込先について

*郵便局振替の場合は、通信欄に「竹原基金」とご記入ください。

郵便振替:口座番号 00120-6-499164 名義:(財)麗澤海外開発協会

*銀行振込の場合は、下記の専用口座をご利用ください。

銀行口座:東京三菱銀行 松戸支店 普通 1286464 名義:竹原基金口

ネパールにおいて東洋医療（鍼灸・マッサージ）普及を図る国際NGOティテパティよもぎの会 もぐさ工場兼クリニック竣工式典を挙行

ティテパティよもぎの会は、当麗澤海外開発協会ならびに日本政府の「草の根無償援助」をはじめ団体、個人からの支援と協力を得て、カトマンズ市郊外チャランケル村に「もぐさ工場兼クリニック」が完成し、4月25日に竣工式典を挙行しました。

式典には、ネパール大蔵大臣プラカシ・チャンドラ・ロハニ氏をはじめネパール人関係者、駐ネパール神長善次大使および当協会から廣池英行理事、木下廣太郎理事、白木和彦評議員、望月雄二評議員と日本からの支援者が参加して盛大に執り行われました。

今後、ティテパティよもぎの会は、この完成した施設を拠点にして女性や軽度の身障者を雇用して第三期事業である「もぐさ」の製造を開始し、中国、日本に次いで世界第3番目のもぐさ生産国を目指します。併せてクリニックを開業し巡回治療で完治しなかった患者や地元住民の治療を行います。なお、本事業はネパール人が自主運営できるように援助体制を強化して、5年後を目処にしてネパール人に運営を全面的を引き継ぐ予定です。



場 所	チャランケル村 (カトマンズ市の西南約15キロ)
土 地	約600㎡
建 物	鉄筋コンクリート造3階建 360㎡
	1階 もぐさ工場
	2階 クリニック
	3階 会議室



◀ 神長大使よりよもぎの会代表イスワル氏へ鍵の授与



▶ 2階クリニック室の様子

< ティテパティよもぎの会事業概要 >

第1期事業

平成4年2月～平成9年7月

東洋医学専門学校の運営（ネパール赤十字と共同）
鍼灸師育成 60名

第2期事業

平成10年1月～平成16年4月

無医村への無料巡回治療の実施（1回1週間）
70回実施、治療患者数 98,458名

第3期事業

平成16年5月～平成21年4月（予定）

もぐさ製造とクリニックの運営

調査委員会発足

麗澤海外開発協会では現在、主にタイやネパールに対して援助を行っておりますが、今後皆様から頂戴いたしました会費及び寄付金を有効に活用していくための「調査委員会」を発足させました。調査委員会ではこれからの国際協力・支援のあり方に関して、また海外で活躍する方の情報などを募集しております。当委員会に皆様方のご意見・情報をお寄せいただければ幸いです。

委員会メンバー

委員長	望月 雄二	委員	白木 和彦
副委員長	長谷 篤治	"	田島 正幸
委員	奥山 恵俊	"	廣池 英行
"	小西 直之	"	松本 哲洋

連絡先（麗澤海外開発協会内）

住所： 〒277-0065
千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL： 04-7173-3165
FAX： 04-7173-8953
E-Mail： emiokado@ga.reitaku-u.ac.jp



第1回ネパールスタディツアーを開催 国際医療活動を肌で体験

平成16年2月7日から11日間、ネパールのカトマンズにおいてスタディーツアーが下記の日程で開催されました。

平成16年2月7日～2月17日(11日間)

- 7日 カトマンズ着
- 8日 巡回治療事前研修
- 9～15日 巡回治療(ヘルスキャンプ)
市内見学・歓迎会
- 16日 養護学校見学
- 17日 カトマンズ発

ネパールで活動するNGO「ティテパティよもぎの会」が年間約12回開催している無料巡回医療に参加し、患者さんに鍼・灸で治療したり、養護学校(「JKK」)で週3回行われている、身体障害者の子供たちのリハビリテーションの見学に行きました。また、午後は市内見物やショッピングを自由に楽しむ時間もあり、日本では得ることができない、貴重な体験をたくさんしました。

今回の参加者は6名(近藤康春、横溝奈々、加藤智美、清水由佳、平地治美、岡戸絵美 敬称略)、鍼灸関係の方も多く、日本にいるときからこの活動に興味を持っている方が多くいました。

ネパールの生活習慣、文化、宗教、意識の違いに触れることで、自分を見つめ直す良い機会となり、援助を必要とする国々への理解を深めることができたのではないのでしょうか。



▲ スタディーツアー参加者とティテパティよもぎの会ネパールスタッフ

参加者感想文

ネパールでの無料巡回治療に参加して

(財)モラロジー研究所 加藤智美

2004年2月、ネパールで鍼灸治療を続ける国際NGO「ティテパティよもぎの会」のヘルスキャンプ(以下、HC)に参加しました。このHCは、医師のいない村を訪れ、無料で治療を行うというもので、1998年から年に10～12回の割合で行われており、今回で69回目です。今回のキャンプ地は、首都カトマンズから車で1時間弱のところにある「Danchhi Bhadrabas(ダチバドラバス)」という地域で、私たちは毎朝5時に起床し、約1時間かけてキャンプ地へ行き、朝7時ごろから午前中の間は治療を行いました。

現在、ネパールの大都市に病院はありますが、地方にはまだまだ無医村が数多く点在し、栄養不足や不衛生な環境により、病気にかかる人が多いそうです。しかし、村から病院までの道のりは遠く、高額な治療費もかかるために、症状をそのまま放っておいてしまう人も少なくないといえます。実際に今回のHCでも、痛みや症状が数年前からずっと続いているという人がたくさんいました。

HC中、私は患者さんの誘導や鍼灸師の先生が患者さんの体の赤ペンで記したツボにお灸をしていたのですが、患者が増え、診察を待つ人が増え始めると、ある感情が生まれてきました。それは、何もしてあげられないことに対するもどかしさです。

鍼灸資格のない私は、鍼灸師の先生方が別の患者さんを診ている間、「エクチン パクヌス(ちょっと待ってくださいね)」と言って、患者さんの体が冷えないよう、体にバスタオルをかけたり、灸ポット(火のついたもぐさを乗せた陶器のお皿)を乗せ、痛みを訴える患部をさすりながら、先生が来てくれるのをただただ待つことしかできなかったのです。

「もし自分が鍼灸資格を持っていたら、もっと多くの方々の治療にあたることができるのに……」「せめてネパール語が使いこなせれば、患部から離れた場所に鍼(はり)やお灸をすることに不安を抱く患者さんに、その理由を説明して安心させてあげられるのに……」。

そんなもどかしさを感じる一方で、たくさんの喜びや驚きもありました。

このHCへの参加が決定した際に、「これだけは覚えてきてください」と渡された、HCで使う用語リストとネパール語の初歩単語&会話リストを、私は必



▲患者さんに笑顔で挨拶する

死で覚えました。しかし、発音を表すカタカナの文字を覚えていただけだったので、実際に現地で使い始めたときには、微かな音の違いから、通じないことや聞き返されることが何度かありました。

それでも「なんとか通じないものか」と、自分の周りで飛び交うネパール語の発音を聞き、その音を真似しながら一生懸命話そうとする私の前には、私の拙い言葉を理解しようとしてくれる、スタッフや患者さんの姿がありました。

そのやりとりを続けていくうち、「なんとか伝えよう」というこちらの気持ちと、「なんとか理解しよう」という相手の気持ちが歩み寄ろうとしていることに気づきました。

私は、お互いの心が歩み寄ることによってようやく言葉が通じたとき、そこに喜びや安心感が生まれ、さらに互いの心も一歩近づけるのだということを実感し、「歩み寄りの心」の大切さを感じました。

また、次のようなこともありました。HC最終日、私は終了時間の際に、長年手に力が入らないという年配の女性の治療をしていました。お灸を終え、「シディヨ(これで終わりです)」と伝えると、その女性は私の手をぎゅっと握り、(ネパール語で)「こんなに力が入るようになったの! とってもうれしいわ。ありがとう、ありがとう」と言って、私たちスタッフに手を合わせて何度も何度もお礼を言いながら帰って行きました。

私はこのHCで、症状が軽くなり喜んで帰っていく患者さんの姿を数多く目にし、「よもぎの会」代表の畑美奈栄先生が「十本の指と少しの医療器具さえあれば治療ができる」とおっしゃるとおり、東洋医学というもののすばらしさを目の当たりにしました。

今年の4月でこのHCは終了し、現在はもぐさ工場に併設されている鍼灸クリニックで治療が続けられています。ネパールの大地で、このすばらしい活動が広がっていくことを願い、今後も活動に協力していきたいです。

タイスタディツアー募集

タイのチェンライ近郊で教育支援活動を行っているメーコック財団(本紙2頁参照)を訪れるツアーです。

【日程案】

平成17年2月10日～2月21日(12日間)
2月9日事前研修会(千葉県柏市 当協会施設内)

10日	成田発
11日	歓迎会
12～18日	メーコック財団施設内視察・市内見学
19日	他のNGO視察
21日	バンコク発

【参加費】

参加費：180,000円(予定)

参加費に含まれる費用：

往復航空運賃、空港使用税、期間中の宿泊費・食費・移動費、コーディネート費

参加費に含まれない費用：

旅券(パスポート)、海外旅行傷害保険費、集合前及び解散後の移動費、その他個人的諸経費、自由行動中の諸経費

【応募資格】

- ・年齢18歳以上(20歳未満の方は保護者の承諾書が必要)
- ・健康状態が良好な方
- ・当会の活動に関心がある方

【募集定員】

10名

【必要となるもの】

パスポート(有効期限が6ヶ月以上あるもの)

【応募方法】

申込締切：平成16年12月20日(月)

申し込み用紙をご請求ください

申し込み用紙に必要事項を記入し、パスポートコピー(写真掲載頁)を添えて、下記の事務局へご送付ください。

【お問い合わせ・申し込み先】

〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

(財)麗澤海外開発協会 事務局(岡戸)

TEL: 04-7173-3165 FAX: 04-7173-8953

E-Mail: emiokado@ga.reitaku-u.ac.jp

平成15年度事業報告

平成15年度収支決算書

(単位 円)

1. 技術者の派遣と支援事業への助成

<ネパール>

東洋療法(鍼灸・指圧)により、住民の健康回復に寄与するため、日本人鍼灸師(畑美奈栄)を派遣して、技術者の育成および治療に使用する「もぐさ」製造に関する事業に助成した。

カトマンズ市郊外に建設される「もぐさ工場兼クリニック」建設費の一部を助成した。

<タイ>

タイ北部チェンライ県で、生活が困窮している少数民族の子供に対して生活・教育支援施設の運営を行っているメーコック財団へ関口輝比古を派遣した。

メーコック財団の事業運営費の一部を助成した。

2. 海外研修旅行の実施

ネパールスタディツアーを実施して、海外ボランティア活動を体験学習し、ネパール社会の現状理解を深めた。

日程 平成16年2月7日(土)~2月17日(火)

参加者 6名

概要 よもぎの会が実施する鍼灸による無医村への巡回治療ボランティア活動

3. 業務出張

木下理事をタイ、ネパールへ派遣(H15.11.29~12.6)して、タイではメーコック財団の運営の現状を視察し、ネパールでは「もぐさ工場兼クリニック」建設工事起工式に出席し、また、現地の運営状況と今後の活動について打ち合わせを行った。

4. 広報活動

ニューズレター第1号を発行した。

インターネットホームページを開設した。

URL: <http://www.reitaku.or.jp>

5. 賛助会員募集

賛助会員・竹原基金の募集を実施し次のとおり加入があった。

賛助会員 法人19社、個人89名

寄付金 44件

竹原基金 87件

収入の部		支出の部	
基本財産利息収入	350,000	給料・手当	1,163,650
賛助会費収入	2,640,000	会議費	412,712
寄付金収入	1,192,000	旅費交通費	54,390
竹原基金収入	1,596,541	通信費	192,914
受取利息収入	812,859	消耗品費	97,743
当期収入合計	6,591,400	印刷費	22,470
前期繰越収支差額	10,386,282	交際接待費	20,000
収入合計	16,977,682	雑費	210,430
		海外旅費	3,002,354
		図書資料費	6,960
		助成費	1,500,000
		当期支出合計	6,683,623
		次期繰越収支差額	10,294,059
		支出合計	16,977,682

- 新役員・評議員 -

次のとおり役員・評議員の改選が行われ、次の方々が選任されました。任期は平成16年3月22日~平成18年3月22日の2年間です。

会長	廣池 幹堂	評議員	阿部 孝
副会長	岩田 啓成	"	大橋 政夫
顧問	田島 政芳	"	奥山 恵俊
常務理事	柴田 英輔	"	小西 直之
理事	木下廣太郎	"	白木 和彦
"	竹原 茂	"	関 哲夫
"	廣池 英行	"	田島 正幸
"	藤村 薫	"	長谷 篤治
"	三井 実	"	堀内 一史
監事	甲良 昭彦	"	松本 哲洋
"	鷲津 邦男	"	望月 雄二
		"	横山 守男

白木和彦氏 第13回「花き技術・経営コンクール」で農林水産省生産局長賞を受賞

当協会評議員で(有)白木園芸を経営する白木和彦氏がこのほど、(財)日本花普及センター主催の花き技術・経営コンクールにおいて、農林水産省生産局長賞を受賞しました。このコンクールは技術・経営に優れ、地域社会の支持と共感を得ている花き生産者を表彰するもので、合理的・安定的な農業経営を行う一方、タイ国にも生産場を運営し、農業の国際化に対応していることが評価されたものです。

内田善一郎氏 日米交流150周年記念外務大臣表彰を受ける

当協会元理事の内田善一郎氏が、このたび日米交流150周年記念外務大臣表彰を受けました。このたびの表彰は同氏が戦後米国への移民運動に尽力し、移民の定住と生活向上を目的に切花生産を開始、日系花農家の経済の安定に貢献したことが評価されたものです。また内田氏は、カリフォルニア州サリナス市と鹿児島県串木野市、ギルロイ市と青森県田子町の姉妹都市締結にも貢献するなど日米草の根交流にも尽力されています。

たくさんのご支援、ありがとうございます

昨年6月から会員へのご入会ならびに竹原基金へのご協力等をお願いしましたところ、皆様から多大のご協力をいただきました。紙上を借りて厚く御礼申し上げます。お寄せいただいた会費や基金・寄付金は、東南アジア諸国で貧困等の理由で学校へ行けない子供たちに対する教育助成事業、ネパールにおける鍼灸専門家の育成と無料巡回治療を実施する事業等に役立たせていただきます。今後とも、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(平成15年11月から平成16年5月末日)

個人会員

山本幾雄、今井収、館林正孝、杉一郎、田島正幸、鷲津邦男、所一彌、廣池英行、柴田英輔、大村金三、高松洸、岸本収、福田薫、奈須六朗、長谷篤治

法人会員

株式会社ダイキョープラザ(杉一郎)、株式会社ケイ・エス・バリュー本部(杉一郎)、八宝商事株式会社(荻野潔)、河北モラロジー事務所(箱田外代治)、横山印刷株式会社(横山明弘)、合資会社川貞商店(古川定邑)

一般寄付金

井田孝、篠原正隆、鷲津邦男、木村多加志、田島正幸、望月雄二、岩本仁、高松洸、長谷篤治

竹原基金

井田孝、山本幾雄、篠原正隆、玉井哲、合資会社川貞商店(古川定邑)、河北モラロジー事務所(箱田外代治)、長谷篤治、横山印刷株式会社(横山明弘)、今井収、岡田恭彦、西野英樹、佐久間孝之、柏谷泰博、館林正孝、大山圭子、田島正幸、高知県モラロジー協議会(中平明)、鷲津邦男、所一彌、石渡英雄、新潟モラロジー事務所(小林誠司)、島村弘子、廣池英行、柴田英輔、渡辺价儀

(敬称略)

種類	年額
個人会費	1口 1万円(1口以上)
法人会費	1口 1万円(3口以上)
一般寄付金	任意の寄付金を募ります
竹原基金	任意の寄付金を募ります

郵便振替: 口座番号 00120-6-499164

名義(財)麗澤海外開発協会

通信欄にご寄付の種類をご記入ください。

銀行口座: 東京三菱銀行松戸支店 普通4057567

名義(財)麗澤海外開発協会